

NEO-SYMPHONIC JAZZ at 芸劇

構成・作編曲：挟間美帆

インタビュー 挟間美帆

“N響JAZZ”の4年を彩った名曲の先に、
気鋭のジャズ作曲家がみつめる
“NEO-SYMPHONIC JAZZ”の地平とは？
オーケストラ・ジャズ新旧の名作と、
新作ピアノ協奏曲で織りなす夏に向けて、
構成・作編曲の挟間美帆に話を聞いた。

ニューヨーク在住のジャズ・コンポーザー挟間美帆が、自身の室内楽団m_unitの新作ライブで今年2月に来日した。その折に行われた“NEO-SYMPHONIC JAZZ”の制作ミーティングの直後、出来立てのセットリストを前に、夏のコンサートへの展望を聞いた。彼女が練りに練ったというプログラムは、“N響JAZZ”でもいわば顔役となってきたガーシュウィンとバーンスタインから、オーケストラによるジャズ音楽のその後の進展を辿った先に、自身の新作「ピアノ協奏曲第1番」までを見渡すもの。イスラエル出身のシャイ・マエストロがソリストとして加わり、さらに彼の自作も披露する豪勢なメニューは、さまざまな世代の聴き手の興味を引くだろう。

「この“NEO-SYMPHONIC JAZZ”に取り組みたいと思いたいちばんのきっかけがガーシュウィンの『ラブソディ・イン・ブルー』。名曲だと思うし、クラシック音楽ファンにも人気のある作品です。でも、初演からもうすぐ100年が経つわけで、管弦楽団が演奏するジャズ音楽の認識が一般にそこで止まっているのが、ジャズ・コンポーザーの自分としては本意だったんですね。オーケストラが演奏するシンフォニック・ジャズが絶滅したわけではない。それをもっともっと演奏して、知ってもらい、親んでもらえるきっかけをつくってあげたいな、というのは私の人生をかけての夢だったので。新作は『ラブソディ・イン・ブルー』に代わるなにかを創りたいというのが最初の考えでしたから、シンフォニーではなくピアノ・コンチェルトにしよう。シャイ・マエストロは私と年代も近いし、クラシックの音楽にも理解があって、なおかつ幅広い即興音楽に対応できる人なので、彼に白羽の矢を立てました」

挟間美帆はクラシックの作曲を専攻して国立音楽大学を卒業後、ニューヨークのマンハッタン音楽院でジャズを専攻した。この大学院時代の2年間、ジャズの作曲を専門的に学び、以降“ジャズ作曲家”として国際的に活動している。

「やはり自分のルーツはクラシックで、もともと頭に鳴る音楽が管弦楽なんです。自分のバンドも13人のチェンバー・アンサンブルですし、そうした活動をするなかで、やっぱり管弦楽団といっしょに音楽をつくりたいなあ、という気持ちも大きくなってきて。クラシック音楽とジャズ音楽のブリッジのようなかたちにならなりたい、と思うようになったのは2、3年前からですね。ジャズは他の文化要素と融合しながら発展してきた音楽ジャンルで、今も多様化し続けている。私にとっては、クラシック音楽と融合したジャズがいちばん自然と自分に合う気がするんです。私のオーケストレーションのバイブルはラヴェルとレスピーギの『ローマ三部作』です。私にとってのオーケストラはまず

色彩感だと思っているので、このコンチェルトでもそういう響きが演出できたらいいなと考えています」

彼女のオーケストラ作品や編曲作品を多く手がけてきた東京フィルハーモニー交響楽団が、アメリカを本拠に活躍する原田慶太楼の指揮で演奏を担う。時代を映す名作を織りなす選曲も、挟間らしい鮮やかなパースペクティブを示している。

「第一に“N響JAZZ”の正統派レパートリーを受けて、まずはガーシュウィンとバーンスタインの名作を。そこに、私にとっては“シンフォニック・ジャズの代名詞”とも言えるクラウス・オガーマンの『シンフォニック・ダンス』を絶対に入れたかった。さらに現代のヴィンス・メンドーサを加えて、新旧を象徴する作曲家を揃えました。シャイ・マエストロも私も同年代ですけれど、『これがいまの30代が考えるシンフォニック・ジャズだよ！ NEOだよ！』というステートメントとして、私は今回のプログラムを考えました。いっぽう、ガーシュウィンやバーンスタインに親しまれる方にも、シャイや私の音楽を知ってほしい。事件のように起きることを目撃するのがジャズの魅力だと私は思いますから」

取材・文：青澤隆明(音楽評論)
写真：渡部孝弘

8月30日(金) 19:00開演 コンサートホール

詳細はHPへ

構成・作編曲：挟間美帆

指揮：原田慶太楼

ピアノ：シャイ・マエストロ

管弦楽：東京フィルハーモニー交響楽団

曲目：ジョージ・ガーシュウィン／『ガール・クレージー』序曲

クラウス・オガーマン／『シンフォニック・ダンス』から第1楽章、第3楽章

ヴィンス・メンドーサ／インプロンプチュ

レナード・バーンスタイン／『オン・ザ・タウン』から「3つのダンス・エピソード」

シャイ・マエストロ(挟間美帆編曲)／ザ・フォーガットン・ヴィレッジ ほか

挟間美帆／ピアノ協奏曲第1番(東京芸術劇場委嘱作品・世界初演)



原田慶太楼

©Claudia Hershner



シャイ・マエストロ

©Gabriel Baharia

芸劇ランチコンサート ~清水和音の名曲ラウンジ~/~名曲リサイタル・サロン~

2019年4月~2020年3月 各回11:00開演 コンサートホール



清水和音 ©Mana Miki 萩原麻未 ©Marco Borggreve 阪田知樹 ©HIDEKI NAMAI

新シリーズ「名曲リサイタル・サロン」も始動!お昼のひとときを贅沢な音楽で

毎偶数月に開催している「芸劇ランチコンサート~清水和音の名曲ラウンジ~」。ピアニスト清水和音を中心とした一流の演奏家たちによる上質な室内アンサンブルで、誰もが知る名曲を堪能できるコンサートです。今年度はヴィヴァルディ、ドヴォルザーク、J.S.バッハと、著名な作曲家の人気曲を集めてお贈りします。奇数月には、今をときめく旬のソリストの演奏を八塩圭子のナビゲートでじっくりと楽しめる新たなシリーズ、「名曲リサイタル・サロン」も始動!5月の第1回公演は、清水和音が得意の“オール・ショパン・プログラム”をお届けします。

~清水和音の名曲ラウンジ~

- 第18回 4月24日(水)「ヴィヴァルディの四季」 詳細はP12へ
 - 第19回 6月19日(水)「ドヴォルザークの楽しみ」 詳細はP16へ
 - 第20回 8月28日(水)「バッハ《第1番》大集合」 詳細はHPへ
- ほか10月・12月・2020年2月公演あり

~名曲リサイタル・サロン~ ナビゲーター:八塩圭子

- 第1回 5月22日(水)「清水和音 ピアノ・リサイタル」 詳細はP14へ
 - 第2回 7月17日(水)「萩原麻未 ピアノ・リサイタル」 詳細はHPへ
 - 第3回 9月25日(水)「阪田知樹 ピアノ・リサイタル」 詳細はHPへ
- ほか11月・2020年1月・3月公演あり

【お問合せ】サンライズプロモーション東京 0570-00-3337

読売日本交響楽団 土曜・日曜マチネシリーズ

2019年4月~2020年3月[全20回(土日各10回)] 各回14:00開演 コンサートホール



S.ヴァイグレ ©S. Vaigle 小林研一郎 ©K. Hayashi
C.マイスター ©C. Maister 岡田奏 ©Karashito Nakamura

「『展覧会の絵』《情熱のブラームス》」土日午後には珠玉の名曲を

チケットの完売が相次ぐ土曜と日曜の午後2時に開催している大人気シリーズ。2019年度も珠玉の名曲の数々を極上の演奏でお贈りします。お得な年間会員券も絶賛発売中(4月26日まで)。

4月には、欧州で注目を浴びる新鋭マイスターが、ムソルグスキー「展覧会の絵」で華麗なサウンドを響かせます。金管楽器や打楽器が活躍する興奮のクライマックスをお楽しみください。

5月には、新常任指揮者ヴァイグレが、ブラームスの交響曲第4番で豊潤な響きを引き出し、温かな感動を生みます。フランス在住の名花・岡田奏の瑞々しいピアノにもご期待ください。

7月には、「炎のマエストロ」小林研一郎がドヴォルザークで哀愁のメロディを劇的に歌い上げます。

4月27日(土)・28日(日) 詳細はP12へ
指揮: コルネリウス・マイスター
チェロ: 上野通明
曲目: カサド/チェロ協奏曲
ムソルグスキー(ラヴェル編)/組曲「展覧会の絵」ほか
チケット好評発売中
ほか8月、9月、10月、11月、12月、2020年2月、3月公演あり

5月18日(土)・19日(日) 詳細はP13へ
指揮: セバスティアン・ヴァイグレ
ピアノ: 岡田奏
曲目: モーツァルト/ピアノ協奏曲第21番
ブラームス/交響曲第4番 ほか
チケット好評発売中

7月6日(土)・7日(日) 詳細はHPへ
指揮: 小林研一郎
クラリネット: アンドレアス・オッテンザマー
曲目: ウェーバー/クラリネット協奏曲第1番
ドヴォルザーク/交響曲第8番 ほか
一般発売: 4月13日(土)

【お問合せ】読響チケットセンター 0570-00-4390 <https://yomikyoku.or.jp/>

仲道郁代 ピアノ・フェスティバル Vol.2

7月14日(日) 16:00開演/15:15~6人のピアニスト クロストーク コンサートホール

詳細はHPへ



仲道郁代 ©Kyotaka Saito 横山幸雄 ©Yukihiro Yamashita 菊池洋子 ©Yuko Kikuchi
實川風 ©Ryoji Ohara 松田華音 ©Akihiro Matsumoto 藤田真央 ©Makoto Fujita

国際派ピアニスト6名による“5台60指”の熱演!

ピアノという楽器の魅力を美しく華麗な演奏、魅力的なトークで多くの聴衆に届けているピアニスト、仲道郁代。彼女が「ピアノの楽しさをもっと伝えたい」という熱い想いで昨年よりスタートした「仲道郁代ピアノ・フェスティバル」が第2回を迎える。今回は2台ピアノと5台ピアノの2部から成る大迫力のコンサートを予定。仲道を筆頭に国際的な活躍を続けるピアニスト6名が集い、白熱の共演を繰り広げる。それぞれの個性と緻密なやりとりを堪能できる2台ピアノによる演奏はもちろんだが、やはり第2部の5台ピアノに期待が膨らむ。合計60本の指が奏でる大迫力のサウンドは、“楽器の王様”ピアノの実力を最大限に発揮し、フルオーケストラの音色を届けてくれることだろう。演奏者の一人である横山幸雄の作品「カルメンの誘惑と幻想」にも注目したい。

文:長井進之介(ピアニスト/音楽ライター)

ピアノ: 仲道郁代、横山幸雄、菊池洋子、實川風、松田華音、藤田真央
曲目: 第1部 2台ピアノ モーツァルト/2台のピアノのためのソナタ 二長調 K.448 ほか
第2部 5台ピアノ 横山幸雄/カルメンの誘惑と幻想~5台のピアノのための ほか

【お問合せ】ジャパン・アーツぴあ 03-5774-3040
(2019年4月1日以降 0570-00-1212)